



# チーム 新課程 学年主任

Supported by  
ベネッセ文教総研

11月

12月

のポイント

本コーナーはハイスクールオンラインの〈先生SNS〉のコーナーと連動しています。〈先生SNS〉では、詳細の情報・資料をご提供しています。また、先生方が直面される課題やその解決方法の共有の場としてもぜひご利用ください。

## ハイスクールオンライン 〈先生SNS〉

<https://teacher.benesse.ne.jp/>



※ハイスクールオンラインのIDをお持ちでない先生は、校内でご確認いただくか、WEBサポートデスク0120-350124までご連絡ください。

〔受付時間〕  
月～金 8:00～18:00 / 土 8:00～17:00  
(祝日、年末・年始を除く)

### ここからお入りください

ほかの先生に相談したい時は⇒相談室へ  
使える資料で負担軽減⇒資料室へ



# キャリア意識を高め、読解力・思考力の育成へ

2学期になり、いよいよ2年次の文理選択や選択科目の決定時期になりました。生徒はこれまでの授業、学校行事、課外活動での学びや気づきを踏まえて、高校生として最初の進路選択に臨みます。この時期は、生徒が自分自身のやりたいことを軸にキャリア・進路を深めるための指導と、その軸を貫き通すための基礎学力の定着、そして、2年次以降の学習を見据えた、足腰の強い読解力・思考力の確かな育成が必要となります。

## ●キャリア・進路を深めるための指導について(文理選択)

文理選択、科目選択については、既に各校では、生徒の希望を集約している頃かと思えます。各大学の2025年度入試科目の情報が十分出そろっていない状況だからこそ、生徒には、教科・科目の得意・

不得意ではなく、本当にやりたいことを大切に、文理選択とその先の進路に思いを巡らせてほしいとこゝろです。生徒には学問や学部・学科・職業に関する知識を増やさせ、現時点での教科・科目の得意・不得意にとらわれている生徒には、基礎学力の定着に向けて、今後どのように学習を進めれば苦手克服が可能か、見通しを持たせることも重要です。大学入試において、高校での探究学習を生かすような総合型・学校推薦型選抜が増えてきました。探究学習をする中で、追究したい学問が見えてくる生徒も出てくるでしょう。担任の先生が、そういった生徒の気持ちを酌み、進路指導部と学年が連携して、教科学力だけでなく、多面的に生徒を見る進路検討会を年度内に行えば、生徒にとって意欲的な進路選択が実現するはずです。

## 11・12月のチェックポイント

数か月先を見通した新課程初年度学年ならではのポイントです。詳細はハイスクールオンライン〈先生SNS〉をご覧ください。

12月

□ 保護者会・三者面談の実施

● 保護者に伝えたい入試の最新情報等の配布資料

□ 2学期末・年度末の観点別学習状況の評価に向けた改善点

● 観点別学習状況の評価の方法の整理

11月

□ 2年次の選択科目の確定に向けたチェックポイント

● 新課程入試科目公表状況と、理科、地理歴史・公民科の科目選択時の留意点

□ 生徒を多面的に見る進路検討会の計画

● 生徒を多面的に見た時の一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜それぞれに向けての適性の見極め

□ 基礎学力の定着、思考力育成

● 「ベネッセ総合学力テスト」直後の指導

テーマ

コンテンツ例

## チームの仲間へmessage

教師の「探究」が  
学年や学校を活性化する!

ようへい  
野田庸平

埼玉県・川口市立高校 1学年主任

**新**学習指導要領に基づく指導と観点別学習状況の評価の実施に加え、本校1学年は、1人1台端末の導入、SSHの指定と、様々な変化の渦中でのスタートとなりました。それらの変化に対応するヒントは「探究」にあると、私は考えています。

学年団では、指導目標を「挑戦と内省を繰り返す、互いに学び合う生徒の育成」と定め、協働的に「探究」する学びを推進しています。手帳とGoogleフォームで、生徒の学習状況を教師も把握し、生徒に声かけをすることで、生活や学習の習慣を律することができるように支援しています。

私は「総合的な探究の時間」の担当で、探究プログラムを一から作っています。「自己と一体的で不可分な課題」に取り組むことを通して、「よりよく課題を発見し解決」という目標を達成するために、「進路と資格」「自由論文の作成と発表」を2つの大きな柱とする活動を行っています。これらの活動の、生徒の思考の跡を記録に残すために、思考ツールとICT機器を用いています。「自由論文」の準備に際しては、若手の教師に大学での卒論・修論作成の経験話をもらうことで、生徒への動機づけだけでなく、教師も生徒とともにSSHに取り組む雰囲気や、校内に醸成したいと考えています。

生徒が「探究」するために、教師も「大人の自由研究」として、教材・授業研究や部活動指導に限らず、趣味や社会活動を深め、楽しみ、学ぶ姿を見せ、生徒の学びを誘発することが理想です。

学年主任としては、先生方の「納得」を得つつ、「持続可能な」教育活動の実現を目指しています。初の学年主任かつ30代半ばで、至らぬ点もありますが、対話を通して、学年、学校の課題を1つずつ乗り越えていきたいと思っています。


●読解力・思考力の  
確かな育成について


SNS上で単語や短文でのやり取りがあたり前になる中、「読解力」の育成の重要性が指摘されています。読解力を土台に高度な思考力が積み上げられるため、大学入試でも、国語や英語のみならず、全教科で読解力が不可欠です。適切に読解できているか、深い思考につなげられているかを判断する材料は、アウトプット物です。授業やテストで生徒のアウトプットの機会を意図的に増やし、2年次以降の読解力・思考力の育成につなげましょう。


少人数での「テーマ別情報交換会」を  
開催しています!

これまで、4月、7月とウェブセミナーを実施し、情報発信をまいりました。先生方が少人数で濃密に情報交換できる場として、「テーマ別情報交換会」をスタートしました。

第1回の情報交換会は「生徒のキャリア意識を学年団で高める進路指導とは」をテーマに開催しました。地方公立進学校や都市部の私立高校など、多様な学校の先生方が参加し、まずは「そもそも高校で育むべきキャリア意識とはどのようなものか」について話し合いました。そこでは、キャリア意識とは自己理解に根差した、高校卒業後も生きる上で必要なものであり、決して就職や進学の見地にとどまるものではないことを確認しました。その上で、キャリア意識を高めるための方策や留意点として、次のような意見が出ました。

 生徒が自由に発言できるような学校文化があつてこそ、生徒は主体的に行動できるようになり、キャリアを自ら形成する力が育まれる。

 将来にわたっての学びを考えた時に、大学入試を高校までの学びのゴールではなく、今後も学び続けるための「資格」として考えさせることが重要だ。

 生徒の中には探究学習から進路のヒントを見いだす者もいる。探究学習と進路が結びつきつつある生徒を見逃さず、推薦型選抜への意識づけを図りたい。

参加した先生方からは、「県を越えたつながりをつくることができよかった」「オンラインであっても、少人数で対話することで、自校の課題を発見したり、共通の課題感に気づいたり、また、それらの解決のアイデアが浮かんだりした」などのご感想をいただきました。先生方はいずれも初対面でしたが、最後は「またこのメンバーで集まりたい!」といった声も聞かれ、少人数のよさを満喫いただいた情報交換会となりました。

今後の少人数での「テーマ別情報交換会」は、11月5日に「生徒の自己肯定感を高めるには」、11月19日に「1年3学期から2・3年次までの計画をどのように立てるのか」などのテーマで、計画しています。

ご興味のある先生は、下記までお問い合わせください。

## お問い合わせ先

フリーダイヤル 0120-350-455

受付時間 月～金 8:00～18:00

土 8:00～17:00 (祝日・年末・年始を除く)